

レンズキットの付属レンズを使い倒そう!!

年末のボーナス商戦では、魅力的なデジタル一眼レフカメラが
買いやすい価格で多数販売された。
これを機に、新たにデジタル一眼ユーザになったという人も多いだろう。
そこで今回は、基本に立ち返り、ボディとのセットになった、
いわゆる「レンズキット」でさまざまな撮影にチャレンジしてみよう。

写真・文・竹澤宏

デジタル一眼 STEP BY STEP



新たにシステムを組むなら まずはレンズキットから

STEP 1

デジタル一眼レフカメラは、レンズ交換できることが一番の魅力。だが、最初はどんなレンズを買ったらいかがかわからないだろう。そこで、ボディとレンズ1本か2本がセットになった「レンズキット」が用意されており、これを購入している人が多い。レンズキットは、ボディ、レンズそれぞれを単体で購入するよりも割安なのが特徴だ①。

レンズキットのレンズは、広角から望遠までの使用頻度の高い焦点域を押さえているので使い勝手がよく、撮像素子のサイズに合わせたデジタル専用設計レンズをキットとして同梱しているケースが多いため、デジタルとの相性がよく、大きさもコンパクトだ。

たいていのレンズキットは、3倍程度の標準ズームレンズを付属している。レンズキットは安価ではあるが、最新のデジタル一眼レフ用に設計されており、決して画質は悪くない。

そこで、まずはレンズキットのレンズを使い倒そう。レンズキットでさまざまな撮影を試しているうちに、自分の目指す撮り方がわかってくるはずだ。そうなった時に、新たなレンズが必要ならば、買い足していくことで一眼レフカメラの楽しみは広がるのだ。

①最初のレンズに迷ったら レンズキットを購入するのが無難



キャノンの「EOS Kiss デジタルX レンズキット」には3倍ズームの標準レンズ「EF-S18-55 ミリ F3.5-5.6 II USM」が同梱されている。Kiss デジタルX のボディ単体だと実売6万5000円、EF-S18-55 ミリ単体だと実売2万5000円程度で販売されているが、レンズキットは実売7万5000円程度となっており、それぞれを単体で購入するよりも2万5000円も安く購入することができる。

レンズのスペックの 見方を知ろう

STEP 2

レンズのスペックを知るうえで「焦点距離」と「開放F値」についておさらいしておこう。

まず、焦点距離というのは、主たるレンズ面から撮像する面（撮像素子やフィルム面）までの距離。太陽光を凸レンズで集めて焦点を結ぶところまでの距離のことだ（ただし、実際のレンズの場合は複数枚のガラスが複雑に絡んでいるのでレンズ先端部分からの距離とは限らない）。焦点距離は短いほど広角、つまり広い視野が写ることになり、焦点距離が長いと望遠つまり狭い視野を切り取ることになる。

「標準レンズ」と呼ばれる焦点距離は、35ミリフィルム換算で50ミリ程度のレンズといわれている。ズームレンズならば、28〜70ミリなどの50ミリを含むレンズが標準ズームと呼ばれる。だが、撮像素子にAPS-Cサイズを採用する多くのデジタル一眼レフでは注意が必要だ。ニコン、キャノン、ペンタックス、ソニーなど、APS-Cサイズの撮像素子を採用するデジタル一眼レフでは、レンズの焦点距離に1.5〜1.6倍した数値が、35ミリフィルムと同じ画角になる。オリンパス、松下電器産業のデジタル一眼レフだと2倍したものが、それだ。

つまり、デジタル一眼レフのレンズキットに多く見られる18〜55ミリぐらいのレンズは、フィルム時代の28〜70ミリ相当のレンズと考えればよい。だから、APS-Cのデジタル一眼だと30ミリ前後が、フィルムの50ミリ、つまり標準レンズということになり、これよりも焦点距離が短ければ広角、長ければ望遠といえる。

一方、開放F値はレンズの明るさ、口径比を表すスペックだ。

例えば、焦点距離50ミリのレンズで開放時の有効口径が25ミリあるとすると50÷25≡F2.0が絞りをもっとも開いた時のF値ということにな

る。有効口径が大きくなればF値は小さくなり、光を取り込める量が多くなるので「明るいレンズ」と呼ばれることになる①。

一般にズームレンズは光学系が複雑で暗いレンズになりがちだ。ズームレンズでは広角側と望遠側でF値変動が起きることもある。エントリー向けのレンズキット用のレンズはこのタイプが多い。だから、広角側と望遠側で開放F値が異なる点に注意しておこう。

もっとも、開放F値の暗いレンズだからといって描写力が落ちるわけではない。ただし、開放F値が明るければ明るいほど、表現の幅は広がることは確かだ。

もし、レンズキットのレンズに不満が出てきたら、次の段階へステップアップする時期が来たのだと考えればいいだろう②。

①レンズを見れば スペックはわかる



キャノンの「EF16-35 ミリ F2.8L USM」。「EF」はマウントの種類（EFはキャノンEOSシリーズのレンズマウント名称）。16-35ミリが焦点距離。「1:2.8」は開放F値がF2.8の意味。LとUSMはキャノン独自の機能の表記。このように、レンズの名前を見ると、どんなレンズかが一目でわかるようになっている。



レンズ購入時にぜひお勧めしたいのがプロテクトフィルタだ。これは無色透明のガラスフィルタでレンズ表面を保護する役目がある。これを付けておけば、レンズ表面にホコリが付着しないので、レンズを直接触ってクリーニングしなくて済むし、不意の事故などでレンズ表面に傷がつくことから守ることができる。レンズのサイズにもよるがおおむね数千円で購入できるので、レンズに付ける保険だと思えば高くないはずだ。